



今回は、かなり実用的な本を2冊つ
紹介する。
ともに、よく使える本である。
授業で、クラブで、子どもたちと一
緒に使ってみては……
…その感想も教えて下さい。

「カラ・スケッチ解剖学」

THE ANATOMY COLORING BOOK

嶋井 和世 監訳 広川書店 43000

この本は、ひと言で言うなら、ぬり絵をしながら人のからだのつくりを学ぼうとするものである。ぬり絵をしながら学ぶのは、以前から、歴史、分るの学習、周期表の学習などでやられている。からだのつくりなどでも、千葉の岩田先生の実践がある。この本は、医学生、看護学生を対象に考えているようで、説明はかなり高度であるが、それだけに利用しやすいという点もある。細胞から、各器官、組織まで、142枚のぬりえ画がある。1枚ずつはずせるように、ミシン目、またはいっている。ぬり絵の色の指定もあるが、そのとおりにやらなくてもやる必要もなからず、また、画がとてもいいので、プリント、テキストづくりに役になる。ともかく、番売人ぶうに言と「3000円は高くない、買っておいで損をしない本」である。

「ソーラ-バルーン」

広井 力 著 立風書房 41200

これまで、何回か、紹介してきた、ソーラ-バルーンについての本である。「理科教室」月号に佐藤琢史さん(岩手)が、かなりくわしい実践を報告されているが、その佐藤さん^に紹介してもらった本である。そう見ているだけでも楽しくなってくる本である。いろんなバルーンが登場する。くわしい作り方も出てくる。子どもたちに見せれば、いっぺんにつくろつといいだすだろう。今からバルーン挑戦しようという人はぜひ……。